

社会歴史発展の主体としての人民大衆

ベラルーシ・ピツェプスク・チュチェ教育学協会代表
S.Y デヴィヤチク

人民大衆に関する理論は、人間があらゆるものの主人であり、すべてを決定するという原理にその哲学的基礎を置いている。人間があらゆるものの主人であるというのは、人間が世界と自己の運命の主人であるということであり、人間がすべてを決定するというのは、人間が世界を改造し自己の運命を開拓する上で決定的役割を果たすということである。

チュチェ思想は人間が肉体的生命とともに社会的・政治的生命をもつことから出発している。もちろん、人間も物質的存在ではあるが、単なる物質的存在ではない。人間は物質世界発展の特出した産物、社会発展の産物であり、それによって自然界から脱してきた。人間は社会的存在として自主性と創造性、意識性をもつ。

人間は自主性をもつ社会的存在である。自主性は世界と自己の運命の主人として自主的に生き発展しようとする社会的人間の属性である。自主性ゆえに、人間は自然の束縛を克服し、社会のすべての従属に反対し、すべてを自己に奉仕するように変えていく。

人間は創造性をもつ社会的存在である。創造性は目的意識的に世界を改造し自己の運命を開いていく社会的人間の属性である。創造性ゆえに、人間は古いものを変革し、新しいものを創造しながら自然と社会を自己にとってより有用かつ有益なものとして改造していく。

人間は意識性をもつ社会的存在である。意識性は、世界と自分自身を把握し改造するすべての活動を規制する社会的人間の属性である。意識性ゆえに、人間は世界とその運動発展の合法則性を把握し、自然と社会を自己の要求に即して改造し発展させていく。意識性によって社会的存在である人間の自主性、創造性が裏打ちされ、その合目的な認識活動と実践活動が保障される。

自主性、創造性、意識性は社会的・歴史的過程で形成され発展する人間の社会的属性である。世界で社会的関係を結んで生き活動するのは、ただ人間だけである。人間は社会的にのみ自己の存在を維持し、自己の目的を実現することができる。自主性、創造性、意識性は、社会的存在である人間にのみ固有なものである。

歴史の主体に関する問題は社会発展、革命発展を主体的な観点と立場で理解する上で基礎的な問題である。チュチェ思想は自然と社会を改造するための人民大衆の闘争によって歴史が発展すると解明した。社会的運動にも物質世界の一般的法則が作用する。しかし自然の運動には主体がないが、社会的運動には主体がある。自然の運動は客観的

に存在する物質の相互作用によって自然発生的に成されるが、社会的運動は主体の能動的な作用と役割によって発生する。社会的運動の主体は人民大衆である。

金正日総書記は次のように述べている。

「人民大衆をぬきにしては社会的運動そのものが存在しえず、歴史の発展について語ることもできません」

人民大衆は歴史の主体であるが、どの時代、どの社会でもその地位と役割が同じであるわけではない。搾取社会で勤労人民大衆は自己の社会的・階級的境遇と力について自覚することができず、一つの政治的力量として結束することもできなかった。勤労人民大衆はただ国家主権と生産手段を自分の手に掌握する社会主義制度を樹立することによってのみ、搾取と抑圧から解放され、世界と自己の運命の真の主人として歴史を意識的に創造していくことができた。

階級社会の全過程は、歴史の創造者と歴史の反動、革命の主人と革命の対象、言い換えれば勤労人民大衆と反動的搾取階級間の鋭い闘争の歴史であった。社会はこの闘争を通じて前進し発展してきた。

社会主義社会に至って勤労人民大衆の境遇と運命で根本的な変化が起こり、彼らの地位と役割が強化されたのは、労働者階級の革命的指導と闘争の結果である。労働者階級が指導する社会主義社会の発展過程は全社会を労働者階級化する過程である。労働者階級の指導の下、全社会が先進的な労働者階級の姿通りに完全に改造される時、歴史の主体である人民大衆の地位は一段と高まり、歴史の前進と革命発展を推進する上で人民大衆の役割は比類なく強化されるだろう。

人民大衆は歴史の主体であるが、正しい指導によってのみ社会・歴史発展で主体としての地位を占め、役割を果たすことができる。人民大衆が歴史の主体としての地位を占め、役割を果たすためには必ず指導と大衆が結合しなければならない。

指導と大衆の結合の問題は、特に労働者階級をはじめとした広範な人民大衆によって遂行される革命運動、共産主義運動において重要に提起される。共産主義運動は高度の意識的、組織的運動であり、深刻な階級闘争をともなうため、正しい指導なくしては成功裏に進めることができない。

革命運動、共産主義運動における指導の問題は、人民大衆にたいする党と領袖の指導の問題にほかならない。

労働者階級をはじめとした人民大衆は、党と領袖の正しい指導を受けてこそ、自然と社会を改造する深刻かつ複雑な革命闘争を力強くくり広げて民族解放、階級解放を成し遂げ、社会主義、共産主義社会を成功裏に建設することができ、それを正しく運営していくことができるのである。

自然を改造する事業は、人民大衆が自然の束縛から脱して自主的な生活を営みうる物質的条件を整える活動である。

人間が生き発展していくためには必ず自然に作用し、物質的富を作り出さなければ

ならない。人々は自然を改造し征服してこそ、自然の束縛から脱することができ、自主的な生活を享受しうる物質的条件をつくることができる。

社会を改造する事業は人民大衆が階級的及び民族的従属から脱して自主的な生活を営みうる社会的・政治的条件をつくる活動である。古い社会制度をなくし、人々の自主性を保障する社会制度を樹立してこそ、人民大衆は世界と自己の運命の真の主人となって自主的に生きていくことができる。

人間を改造する事業は、人民大衆が古い思想と文化の束縛から脱し、自主的な生活を享受しうる思想的・文化的条件をつくる活動である。ゆえに、社会改造、自然改造、人間改造は人民大衆の自主性をめざす活動の重要な構成部分をなしている。

金日成主席は、世の中でもっとも貴いものは人間であり、もっとも強力な存在も人間である、自然と社会を改造するのも人間のためであり、また人間のなすことである、したがって、社会の発展でもっとも重要なのは、人間をより強力な存在に育てることであり、革命と建設を力強く推し進めるためには、対人活動、人を改造する活動を優先させなければならない、われわれのあらゆる活動は、人間のためのものであり、その成果いかんは、対人活動をどう行うかにかかっている、教育活動は対人活動の重要な部分の一つである、教育とは人々を知・徳・体を兼備した社会的人間に育成する事業である、と述べている。

金正日総書記は社会主義・共産主義の建設過程は、社会の物質的・技術的土台が強固になり、人びとの思想・文化水準が高まるにつれて、人間の自主性と創造性がよりりっぱに実現されるよう、社会関係が絶えず改善されていく過程であると述べた。

総書記はチュチェ思想教育の究極の目的は、一言でいって、革命の主体である人民大衆を自主的な革命思想で武装させ、革命隊伍の思想、意志の統一を保障し、人民大衆に革命と建設で主人の地位を守らせ、主人の役割をまっとうさせるところにあると述べた。

朝鮮民主主義人民共和国は世界初の社会主義国家ではなかった。最初の社会主義国家はソ連であった。しかし朝鮮は他国の経験を模倣したのではなく、それを研究し自国の具体的現実に合わせて創造的に具現した。

大衆運動を実例として挙げることができる。一番広く知られているのがチョンリマ運動である。

朝鮮民主主義人民共和国における大衆運動は、全人民が参加する運動として経済的課題の遂行よりも人間改造、共産主義型の新しい人間を育成するのに基本を置いていた。これは疑いなく思想革命を優先させながら文化革命と技術革命を同時に推進すべきであるという金日成主席の独創的な理論に基づいている。

朝鮮民主主義人民共和国における大衆運動は、社会経済的現象であるだけでなく社会教育学的現象であるといえる。これは朝鮮人民が、困難な状況での労働活動を通じて国を樹立し、国と民族の将来の繁栄をもたらす基礎をつくるだけでなく、自らを新たな

チュチェ型の人間、共産主義型の人間として準備し、その過程で社会・歴史の主体としての品性を身につけていくという意味である。